

「2006年機関紙コンクール」総評

ポイントは「目配り・気配り・思いやり」

対話↓聞き取り↓集約↓企画化↓発行へ

日本機関紙協会常任理事 桜井輝治



1、今年も興味深く参加紙を見せていただきました。会社の理不尽な施策を告発し闘いを呼びかける、通信労組機関紙の位置は変わっていません。多くの読者であるNTT労組組合員や非正規職員にとって、「必要な情報」「欠かせない情報」だからこそ、全国どこでも配布機関紙が読まれている。と共通して機関紙編集者は自覚しています。

中には「こんなものでいいの

か」と思っている、「読まれていることを実感している」と多くの人が書いています。「じっくりと見ている」姿に企画のねらいが読者に伝わったことに自信を深めている人もいます。こんなコメントもありました。「発行が遅れると、出していないのか」と言われ、「発行することで読者に励まされる」と。

読まれているのか、読まれていないのか自信を失っている他労組の機関紙と比べると、「これは大切なことだ」と真実を伝える機関紙があり、それを心待ちにしている多くの読者がいるという関係は、通信労組の機関紙活動の方向が間違っていないことを示すもので、大いに自信を

持つていいものだと思います。2、さらに今年は支部独自の企画が目立ち、支部の課題を自ら企画し支店の問題を追求していく企画が増えました。全国課題と同時に支部独自の課題に対しても常に目配りしていく企画が具体的な紙面といえます。優秀紙の特徴としてあげられるのは、この「オリジナル性」です。内容が具体的に直接読者に響く内容を持っている紙面は強い。またコラムが具体的に生き生きしているのも特徴としてあげられます。コラムの具体性とは、身近な話題が語られ、大切なことを分かりやすく伝えられているかということです。どこかの新聞に書かれてあるよう

なことを同じ言葉で語っていたら、相手にはあまり伝わりません。自分の言葉で書けた時に、初めて伝わる言葉となります。いつも職場の声と実情が反映しているか、仲間の気持ちや伝えられているか、読んで元気になる方向性を示しているか、借り物ではない自分たちの言葉で書いているか等々、通信労組に期待される内容はたくさんあります。そこでのポイントは「目配り・気配り・思いやり」がある紙面が読まれます。

3、審査の感想の中で、岩崎委員長は「怒りが弱くなっているか。紙面のインパクトが低下している」と語りました。編集委員の笹本さんは「職場の声がつかめていないことが、力のなさにつながっている」と指摘し、広島支部の八木さんの話をされました。

広島支部の八木さんが職場で「今度、派遣の集会に行くの」と言ったら、派遣の人が「えっ」と目を大きくして迫ってきたというのです。



読んでもらう工夫を

3秒で読めるようビジュアルに訴え

航空連・客室乗務員連絡会事務局長 町田直子

今回一番職場の声をひろって
いた紙面は広島支部でした。八
木さんはいつも多くの人と話し、
いつもメモを取っているそうで
す。

けになっていないか注意しまし
よう。機関紙の紙面は多様な企
画が配置されて読めます。コ
ラムや文化欄などあることで豊
になるのです。

4、機関紙の編集技術は「どう
常に話しかけと対話を心がけ、
読んでもらうか」の技術です。

記事が押しつけ的だと、見出
しもどうしても「を」「しよ
う」といった押しつけ見出しと
なりまます。見出しは紙面の重要
なポイント、具体的な言葉で読
者を引きつける見出しを工夫し

仲間たちの声と要求をみんなで
集約し、次への企画に生かして
いくという、対話↓聞き取り↓
集約↓企画化↓発行というス
タイルを作ることが、生き生き

強い書体、やわらかい書体など
使い分けることで読みやすくし
ていきます。

紙面が文字だらけでも読みにく
い印象をつくりまます。カットや
写真一つでも入ると余裕が出て
読みやすくなります。また長い
記事には中見出しを入れる、大
きな記事にはリードを入れるな
ど工夫が必要です。

書体などにも注意が必要です。
強い書体、やわらかい書体など
使い分けることで読みやすくし
ていきます。

通信労組25周年のレセプショ
ンでの挨拶にお招き頂いたのに
引き続きまして、今回、機関紙
コンクルールの審査までさせて頂
きました。

力や苦勞、工夫が伝わってきま
した。また、門前での配布状況
なども目に浮かんできました。
どこの支部・分会も未組織の方
を含め、職場から大いに期待され
ている教宣物を発行していらっ

全ての機関紙を拝見し、点数
をつけるのが非常に困難なほど、
全国の支部・分会の皆様のご努
力（0）。

裁判には至らずとも、日常の
問題も職種ごとに幅広く存在し
まます。また、憲法9条改悪の動
向も、平和産業である航空業界
にとっては非常に大きな問題で
す。それらの問題を同じ航空と
はいえ、様々な職種の人たちに
教宣するのは至難の業です。航
空連では「フェニックス」とい
う機関紙を毎月タブロイド版で
発行し、職場配布やモノレール
駅前などで配布しています。そ
の機関紙によって、他職種で抱
える問題や裁判の状況を知るこ
とができ、支援の輪を感じるこ
とができます。

私たちが客室乗務員は、特殊な
仕事です。低酸素・低気圧・振動・
騒音・乾燥・密室となった機内

で緊張を何時間も強いられたフライトを終え、会社に戻ってきたときには、活字など正直、読む気にはなれません。単組として、そのような職場にニュース

を読んでもらうには、一工夫も二工夫もしています。まずは①字を大きく、字だらけには絶対にしてない。②写真や絵を多く取り入れ、飽きさせない。③贅沢せず、ポイント（焦点）を絞ったニュースにする。

それでも書きたいことはいっぱいあるので、今度は渡し方を工夫します。メールボックスへ各自のポストのような物へへの配布の他、夜退社時ビラとして配布、案外ステイ（宿泊）先では時間がある場合も多いためステ

イ先回覧板として配布…などなど、読んでもらうための工夫は何でもします。職場にある掲示板は通り過ぎて3秒で読めるように、一文字を20〜30cmほどの大文字でシンプルに書きます。一言で言うところ「ビジュアルに訴える」。これらのアイデアも職場から生まれました。内容

もちろん大切ですが、どう伝えるか？どうしたら読んでもらえるか？これを常に念頭に置きながらの活動が日々続いています。

私たちの職場にも正社員・契約社員・派遣・再雇用など様々な雇用形態の労働者が存在します。未組織の方を意識した、充実した内容の教宣も常に課題としてあります。今回、全く畑の違う職種の通信労組の全国の機関紙を拝見する機会が持てたこ

とを大変感謝しています。悩みはどこも一緒です。悩みを共有しながら、より読みたくなる、期待される機関紙を目指して、お互い頑張っていきましょう！

の搭載作業、機内清掃、飛行機

のドアの開閉担当、貨物や郵便の仕分け、運搬、搭載など…いっぱいあります⁽¹⁾。地上職との違いですが、乗員、客乗、整備、グラハンを専門職で呼び、それ以外のたとえばカウンター職員や事務職などのことを総称して「地上職」と呼んでいます。

意を表します。いま職場労働者は、リストラや仕事の過密、成果業績の更なる追及などで悩み苦しんでいます。この時こそ通信労組の真価である大いなる教育宣伝活動が求められています。コンクールに応募された機関紙は、多く支部が職場労働者の声を聞き要求に反映させ、共同のたたかいを訴えられています。また、機関紙等の発行では、集团的・定期的な発行も追及され、職場労働者の要求の応えようとしていきます。これらのたたかいは、通信労組運動にとって本当に大事なことです。通信労組が配布するビラを見て、組合に加入する方が増えています。いかに情宣活動が大事なことであるのか、立証しています。

職場労働者は、真実を知り、何が間違いか、要求の実現には何が必要なのか、これらの道がわかればともに立ち上がってたたかってくれます。

これからも各支部・分会の精

教宣活動を土台にして大きな成果を

中央執行委員長 岩崎俊

この一年通信労組は、たたかいの中で大きな成果を勝ち取りました。藤井裁判勝利、奥村過労死裁判での高裁の勝利、理不尽な広域配転者を地元へ、会社

選択での労働者の悩みの相談、リストラ計画以来64ヵ月連続の組合員の拡大、職場要求の実現、企業年金受給者の減額阻止などの成果は、支部・分会の機関紙・職場二ニュースなどの情宣活動に支えられて勝ち取られたものです。職場の要求を大事にして職場全労働者への訴えなど情宣活

動的に携われた皆さんに心から敬意を表します。

力的な情宣活動が、通信労組のたたかいを大きく広げ、組織の拡大の力になることを確信しています。

組合活動の喜びが伝わって来る機関紙に

教宣副部長 笹本さつき

いつも「次の企画はどうしようか」と考え、出来上がれば「これでよかったのだろうか」と悩みながら、昼夜機関紙活動に奮闘されている皆さん本当に苦勞様です。

今回の応募作品は、機関紙の部で17支部、4分会と家族会二ニュースの22作品となり、昨年より6作品の減となりました。表彰については、優秀賞1、入賞4、佳作3、激励賞2、特別賞1、となりました。機関紙コンクールは、支部や分会の機関紙活動の現状はどうなっているかを確認するのが一番の目的で

す。残念ながら審査に間に合わなかった作品もありました。発行された機関紙はその年の振り返りの意味も込めて、機関紙担当独自の取り組みとして、期限内の応募で一年間の頑張りを確認しあいたいと思います。

「編集者が育たない」苦勞がいくつかの支部から出されています。一面と二面を分けて編集をするのも一つの手かとも思います。他労組からの情報がない中で、通信労組の機関紙は、どこでも「待たれて」います。分会機関紙の有るところでは、支部機関紙との連携で宣伝回数を増やしていくことで「職場の声」や反応ももっと集まってくるのではないのでしょうか。その意味で分会の記事だけに徹した「都島」は、分会活動の喜びが紙面から伝わってくる分会機関紙の見本のような気がします。

連帯と職場に根ざした機関紙活動を

書記次長 武田 清春

敢然と通信労組の旗をかかげ、

読まれ頼れる機関紙めざして、機関紙活動に奮闘されている支部・分会のみなさんに心から敬意を表します。

NTTリストラ「構造改悪」のなかで、長時間通勤やなれない仕事に追われながら、夜遅くまでパソコンにむかって機関紙をつくっている姿が目につかびます。

だからこそ、全国の横の結びつきをもっと深めつつ、職場に依拠した教宣活動と組合員を増やす活動が重要になっています。大変な中でも、組合員や職場の仲間にしつかりと読まれる機関紙めざして精進することはいくらまでもありません。そのために特に機関紙活動の困難な支部への援助を痛感しています。

教宣活動の充実とレベルアップだけではなく、支部機関紙活動再建のためにも「機関紙学校」などの開催が強く求められています。通信労組の組合員が一人でも気軽にできる機関紙づくりも考えていかねばなりません。

(了)

通信労組 2006 年機関紙コンクール応募作品 通信労組第 31 回定期全国大会

2006年8月25日

機関紙の部

受付番号	支部名	分会名	作品名	備考
1	岩手		通信労組 岩手	激励賞
2	宮城		通信労組 みやぎ	佳作
3	山形		たんばぼ (週刊)	
4	埼玉		通信労組 さいたま	
5	千葉		通信労組 ちば	
6	東京		通信労組 東京	
7	東京	千代田中央	通信労組 千代田中央	入選
8	東京	上野	金町	佳作
9	神奈川県		通信労組 かながわ	佳作
10	静岡		通信労組 こだま	
11	岐阜		通信労組 岐阜	
12	愛知		月刊・週刊「愛知」	優秀賞
13	京都		通信労組 京都	
14	京都	M E 京都	通信労組 M E 京都分会	
15	大阪		通信労組 おおさか	入選
16	大阪	都島	通信労組 都島分会	入選
17	兵庫		通信労組 ひょうご	
18	岡山		通信労組 おかやま	
19	広島		とんび	入選
20	山口		通信労組 やまぐち	
21	大分		通信労組 おおいた	激励賞
22	NTTリストラを許さない家族の会		お便りにゅうす	特別賞

- ・参加賞として「ステップアップ・デジタル写真教室」の本、図書券
- ・教宣活動激励として、優秀賞 4 千円、入選 3 千円、佳作 2 千円、激励賞 2 千円、特別賞 2 千円